

病防第39号
平成22年7月20日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特殊報

平成22年度発生予察特殊報第1号

平成22年7月20日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 チャノキイロアザミウマ（新規系統）
 学名：*Scirtothrips dorsalis* Hood
- 2 発生作物 トルコギキョウ
- 3 発生確認の経過
 平成22年5月に熊本県内のトルコギキョウほ場で花首部分がコルク化する症状が発生し、被害部分にアザミウマ類の寄生が確認された。そこで、成虫を採集し、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所の果樹害虫研究チームに遺伝子診断を依頼した結果、従来から分布していた在来系統とは異なるチャノキイロアザミウマの新規系統と確認された。
- 4 分布
 新規系統の遺伝子型は東南アジア及び南アジアの個体と同一あるいは極めて類似している。国内では、平成20年に高知県及び沖縄県のピーマン、高知県のシトウ、平成21年に宮崎県及び鹿児島県のマンゴー、鹿児島県のハウスミカンで発生が認められている。
- 5 寄主範囲
 在来系統は木本植物を中心に極めて広い寄主範囲（61科200種以上）を持ち、古くから国内のチャや果樹の重要害虫とされてきた。新規系統と遺伝的に類似した海外の系統は、パッションフルーツ等の各種熱帯果樹、ピーマン、草本類、木本性マメ科植物等、在来系統の寄主植物以外にも寄生する。
- 6 形態
 在来系統との違いはなく、成虫は雌雄とも体色が黄色で、体長は雌が約0.9mm、雄は約0.8mmで、前翅を閉じた場合、背部中央が黒く筋状に見える（図1）。

7 被害の状況

症状としては、花首部分のコルク化、蕾のわい化、新葉の奇形（図2）及び草丈の伸長抑制（図3）が認められ、品質の低下を招く。なお、花首から下部の茎や葉には被害は認められなかった。

8 防除対策

- 1) 施設内への侵入を防止するため、開口部に防虫ネットを展張するとともに、黄色粘着テープを設置し本種の密度を低下させる。
- 2) 薬剤による防除を行う場合は、アザミウマ類に適用のある登録農薬を使用し、使用基準及び使用上の注意事項に気をつけて散布を行う。

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所
（農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係）
担当：加賀山 TEL：096-248-6490



図1 チャノキイロアザミウマの成虫



図2 蕾周辺部の被害
(花首のコルク化、蕾のわい化
新葉の奇形)



図3 ほ場での被害株 (草丈の伸長抑制 (写真中央))